

板橋第六小学校改築における基本構想・基本計画の策定について

板橋第六小学校の改築計画における設計や工事を進めていく上での基本的な考えや指針をとりまとめ、この度、基本構想・基本計画報告書を策定したので概要を報告する。

1 板橋第六小学校の改築計画について

板橋区教育委員会では学校の老朽化対策と適正規模・適正配置の取組を一体的に進めるために、平成 26（2014）年 2 月「いたばし魅力ある学校づくりプラン」を策定した。同プランでは、昭和 30 年代に建設され、大規模な改修工事を実施していない学校を前期計画の対象校とし、近隣校の状況も踏まえ、施設の整備方針を検討している。

板橋第六小学校については、前期計画の対象校ではないが、築約 60 年を経過し、近い将来、施設整備の対応が必要であるとともに、通学区域内で大規模集合住宅の建設が集中したことにより、教室数の不足が見込まれたため、現地での建替えにて対応することとなった。



板橋第六小学校の通学区域

<参考>

通学区域内での大規模集合住宅の建設状況

(令和 7 年 2 月時点)

- ①ザ・パークハウス板橋大山大楠ノ杜（187 戸）完成済
- ②シティワズ 板橋大山（327 戸）R7.9 入居開始予定
(大山町クロス イト周辺地区第一種市街地再開発事業)
- ③ジオ板橋大山（285 戸）R7.4 入居開始予定
- ④再開発事業（約 580 戸）R12 竣工予定
(大山町ヒッコロ・スクエア周辺地区第一種市街地再開発事業)

● 児童数・学級数推移及び将来予測（令和 6 年 11 月 1 日現在）

	R6	R10	R15	R20	R25	R30
児童数	370	407	643	759	608	400
学級数	13	13	22	24	20	14

※既存校舎での対応可能教室数

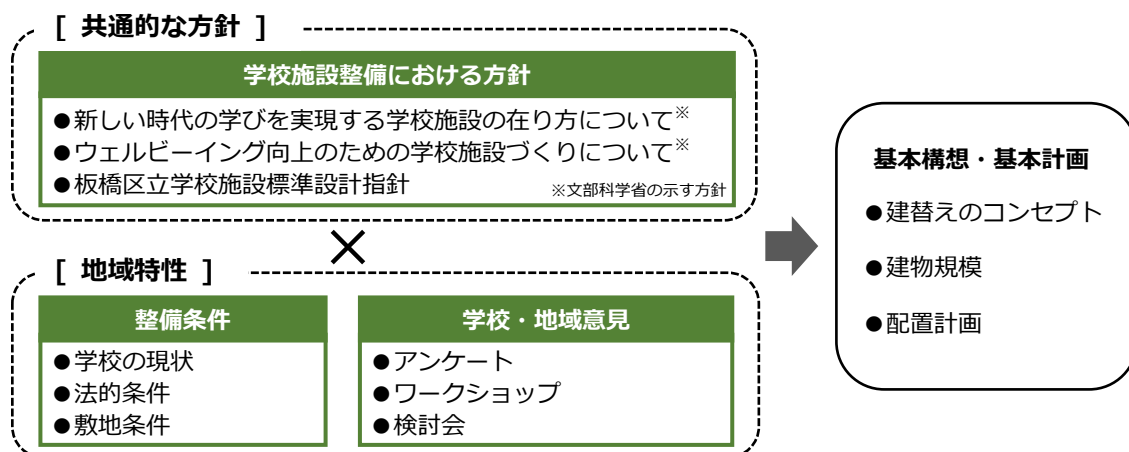
➡ 16～17 教室

※令和 20 年度前後に学級数がピーク

➡ 24 学級

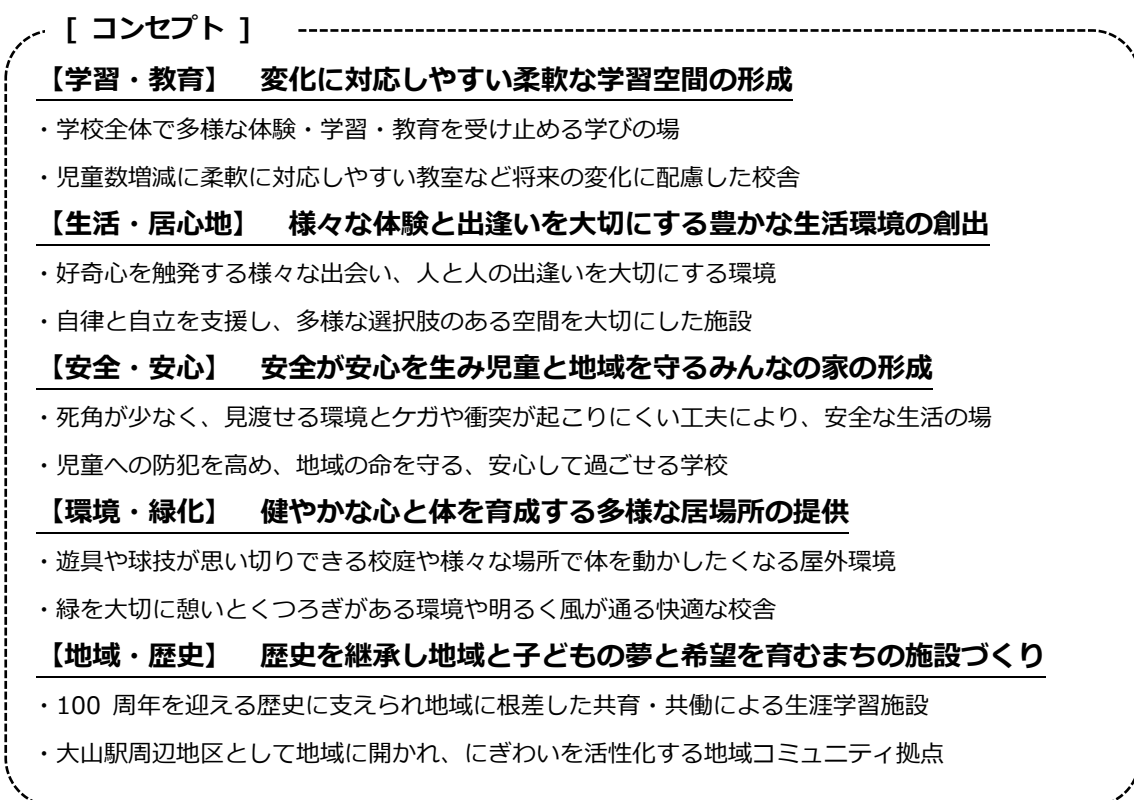
2 基本構想・基本計画報告書の構成

学校施設を整備するうえでの共通的な方針となる「学校施設整備における方針」をベースとし、各学校個別の「整備条件」や「学校・地域意見」を地域特性として取り入れ、建替えのコンセプト、建物規模、建物配置等を定め、基本構想・基本計画報告書としてとりまとめた。



3 新しい板橋第六小学校のコンセプト

アンケートやワークショップ、検討会で得た児童、保護者、学校、地域意見や現状整理からの地域特性を踏まえ、新しい板橋第六小学校のコンセプトを以下のとおり定めた。



4 計画の条件

(1) 周辺環境

敷地は、東武東上線大山駅より南西に約 300 mに位置している。敷地の南西側は川越街道（国道 254 号線）に近接し、付近にハッピーロード大山商店街がある立地となっている。

周辺道路の状況

北側：公道 認定幅員 6.363m

東側：公道 認定幅員 6.363m

南側：公道 認定幅員 6.363m

西側：公道 認定幅員 6.363m

南西側：公道 認定幅員 25m

都市計画事項

①南西側道路境界線より 30mの範囲

②上記以外の範囲

● 用途地域：①商業地域 ②第二種住居地域

● 建蔽率：①80% ②60%

● 容積率：①500% ②300%

● 防火地域の指定：①防火地域 ②準防火地域

● 高度地区：①最高限度 45m、最低限度 7m
②第三種高度地区、最高限度 30m

● 日影規制：①なし ②5時間 - 3時間/4m

● 地区計画等：①②大山駅西地区地区計画

①国道 254 号線 A 地区沿道地区計画



敷地周辺図



仮設校舎の建設想定位置

(2) 計画の留意事項

水害への対応

敷地北側の一部について、想定最大規模降雨時に 0.1～0.5m未満の浸水リスクが想定されている。

校舎配置（仮設校舎の想定）

児童数増加により教室数が不足した場合は、仮設校舎を建設する可能性があるため、仮設校舎建設想定位置を考慮した校舎配置を検討する。

(3) 建物規模

[主な計画条件]

- 児童推計の 24 学級（最大値）にて設定
（+ 3 学級程度は少人数教室等の転用にて対応）
- オープンスペース方式での運営
- 特別教室の利用率は 80%以下
（80%を超えるとカリキュラムを組むことが困難）
- 普通教室は、約 68 m² ※既存教室は 63 m²程度
（机の新 JIS 規格対応、様々な学習形態への対応）

計画目標床面積

約 9,800

～10,800 m²

5 計画目標

新しい板橋第六小学校のコンセプトを実現するため、特に配慮すべき事項を個別の計画目標として以下に整理する。（本編より一部抜粋した内容である。）

●平面計画の計画目標

項目	計画目標
普通教室まわり	・柔軟な学習空間を形成できる計画 ・憩いの場となるベンチコーナーや居場所となる小空間の設置等
少人数教室	・普通教室へ容易に転用できる設え
メディアセンター（図書室）	・図書を身近に感じられるよう学校の中心となるような配置 ・調べもの学習や学習発表等、多様な授業展開ができる計画
多目的ホール	・学年集会や異学年交流等の学校活動や地域の集会等、多目的に使用 ・地域住民や外部講師等も利用しやすい位置に計画
校内別室	・教室以外の居場所として、安心して過ごすことができる計画 ・落ち着きやリフレッシュするための場所
屋外運動場・屋内運動場	・のびのびと運動ができるよう十分な大きさを確保 ・一部舗装を変えてイベントや防災訓練等に活用できるよう検討 ・屋上運動スペースを設けることを検討
プール	・屋内プールを検討 ・プールを利用しない時期の空間の有効活用を検討
外構・みどり	・ピロティの設置を検討 ・身近に自然に触れ合え、感じられるような緑化計画

●分野別の計画目標

項目	計画目標
動線計画・ゾーニング	・児童の日常的な上下階の移動の負担が少なくなるような動線計画 ・地域利用や休日等の校舎利用ゾーンの適切な管理 ・将来的な空き教室の転用も想定
構造計画	・十分な耐久性と修繕やメンテナンス性にも配慮 ・将来的な施設機能の変化にフレキシブルに対応
防犯・安全計画	・日常的な学校運営における防犯・事故防止対策を図る ・地域開放時におけるセキュリティ等に配慮
防災計画	・避難場所としての役割を果たす防災機能・避難所機能を確保 ・マンホールトイレの設置等を検討
環境配慮	・ZEB 認証の取得を前提に計画 ・環境教材となる設備を計画
地域連携・協働	・歴史を未来に継承する展示空間等を計画する ・可能な限り地域に開放するよう検討する

6 配置計画

ワークショップでの意見を基にA案からC案の配置検討案を作成した。各項目の比較や改築検討会での意見も踏まえ、総合的に、敷地の南側配置となるA案を採用した。

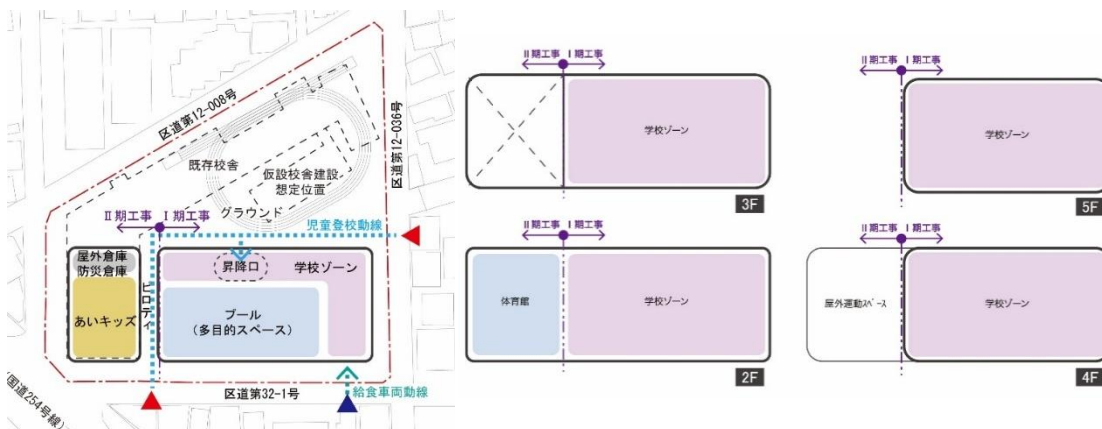
● 各配置案の比較表

配置計画比較表	A案 敷地南側配置（段階整備）	B案 敷地東側配置（段階整備）	C案 敷地南側配置（段階整備なし）
校舎配置イメージ			
階数	地上5階程度	地下1階 地上6階程度	地下1階 地上7階程度
移動の負担	中	大	大
校庭の大きさ・広場	中+屋上広場を設置可能	中	大
学校ゾーンの引越	2年2か月	2年6か月 ※既存校舎を一部利用	3年5か月
全体工期	5年9か月	6年3か月	4年10か月
近隣への圧迫感	小	中	大
コスト	中	やや高め	高め

決定案

※詳細は今後の設計にて検討します。

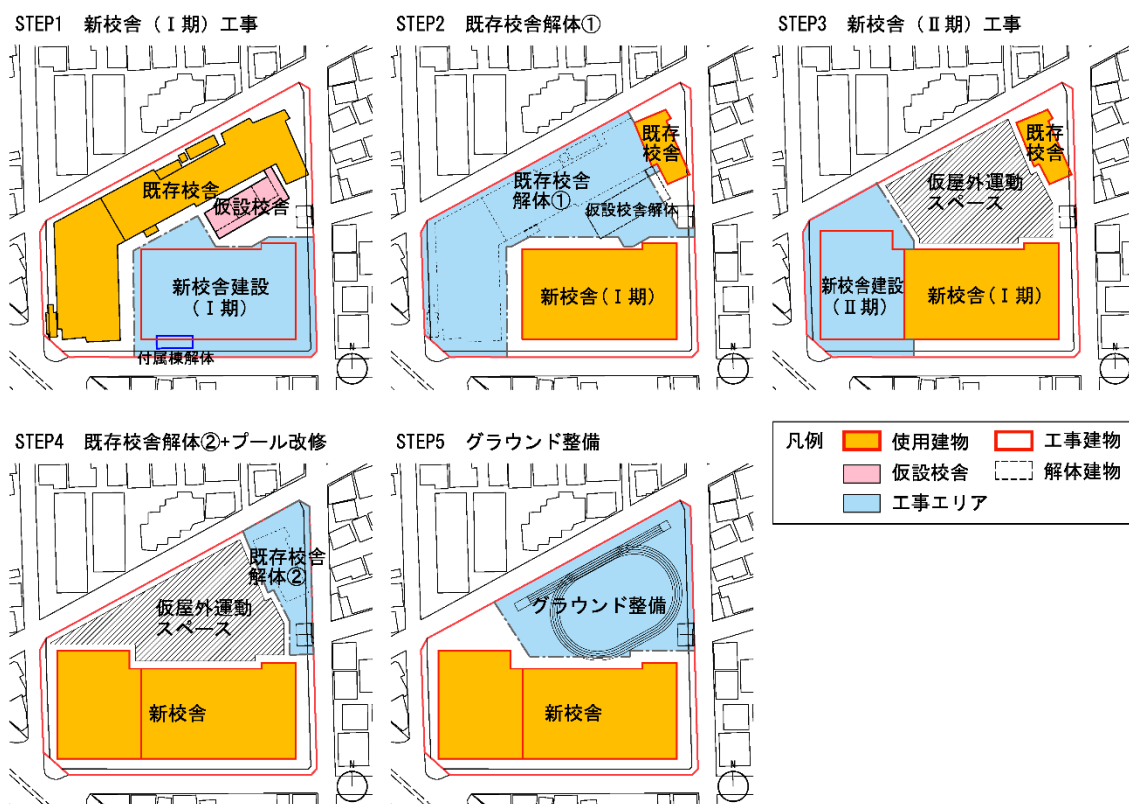
A案：敷地南側配置（段階整備）案



メリット	- 他案と比較して低層のため、近隣への圧迫感が軽減される - 日常的な児童の縦移動の負担が軽減される - II期の屋上を運動スペースとして利用できる - 新校舎の使用開始時期が一番早い
デメリット	- あいキッズはII期工事となるため、I期完成後は既存あいキッズ棟を利用しながらII期工事を行う必要がある - 工事中に体育館がない時期が生じるため、対策が必要となる

7 工事工程

段階整備の工程計画は下図のとおりである。



8 想定スケジュール

基本構想・基本計画で取りまとめた内容を踏まえた想定スケジュールは下表のとおりとなる。

年度（令和）	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
基本構想 ・基本計画										
基本設計 ・実施設計										
仮設校舎										
改築工事 （校舎解体、 外構整備含む）				I 期 工事	STEP1 校舎解体①	II 期 工事	STEP2 校舎解体②	STEP3 外構整備	STEP4 全面開校	
供用開始					一部供用開始					

※今後の設計により変更となる場合があります。